有珠山の火山活動解説資料（令和８年10月）

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１-①～④、図２）

監視カメラによる観測では、山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上200m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図１-⑤、図３）

火山性地震は山頂火口原の深さ1km以浅で発生しました。地震回数は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図４、図５）

GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような変化は認められません。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』及び『基盤地図情報』を使用しています。
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。

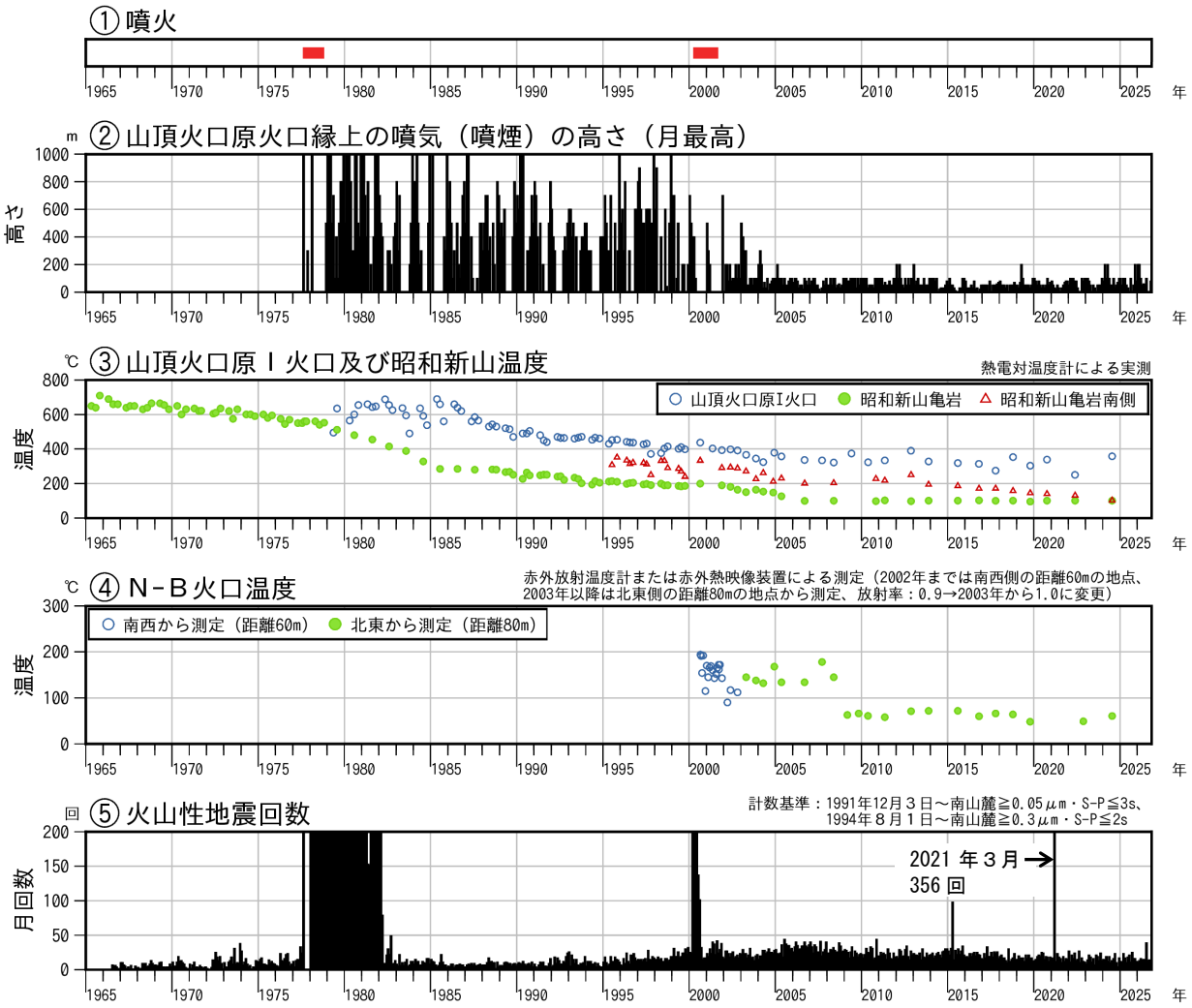


図１　有珠山　火山活動経過図（1965年１月～2026年10月）

①の赤線の期間は噴火活動期を示します。

⑤の地震回数で、1991年12月２日以前の計数対象観測点は以下の通りです。

1966年７月１日～　大有珠から南東側約1.8km地点

1976年８月31日～　山頂ロープウェイ駅付近

1978年１月12日～　大有珠から南西側約３km地点



図２　有珠山　北西側から見た山頂部及び周辺山麓部の状況（月浦監視カメラによる）

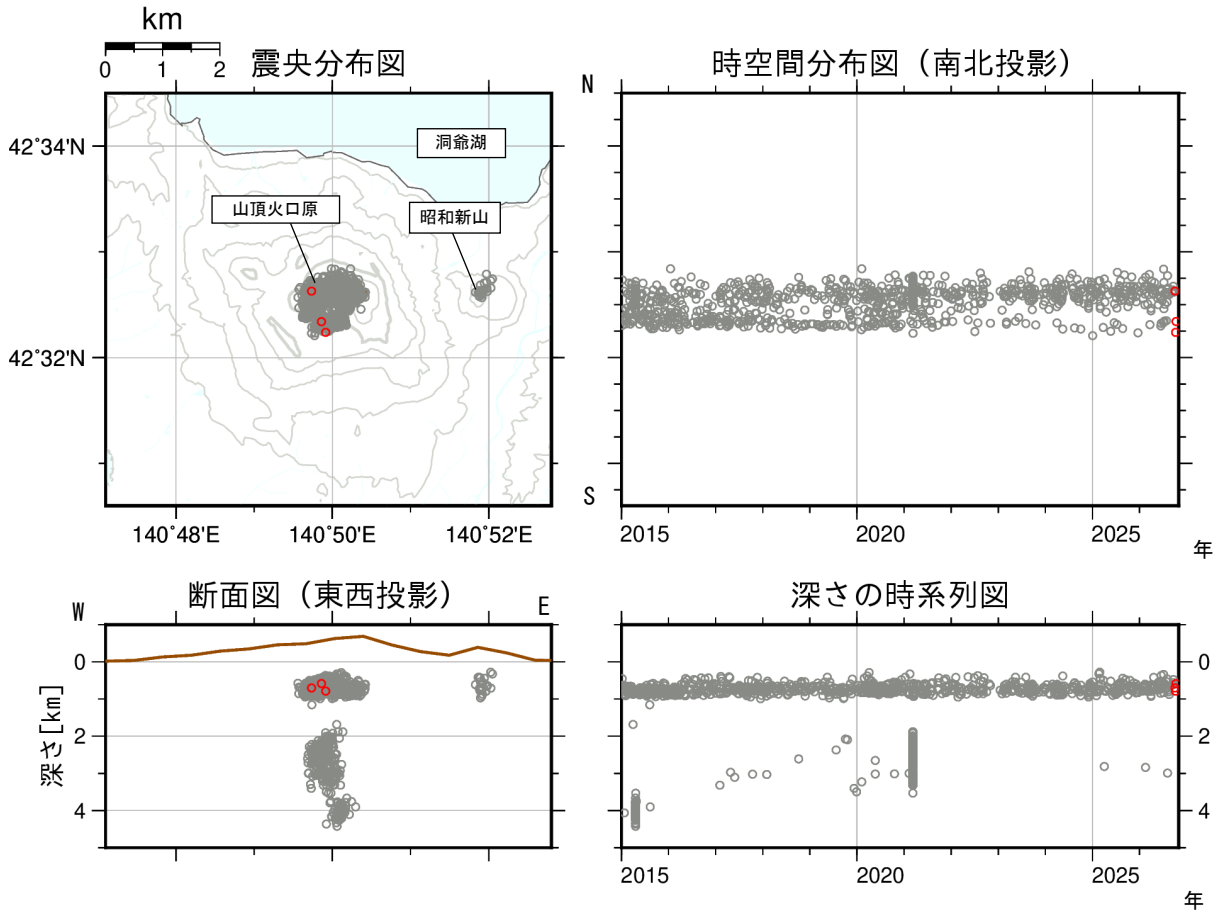
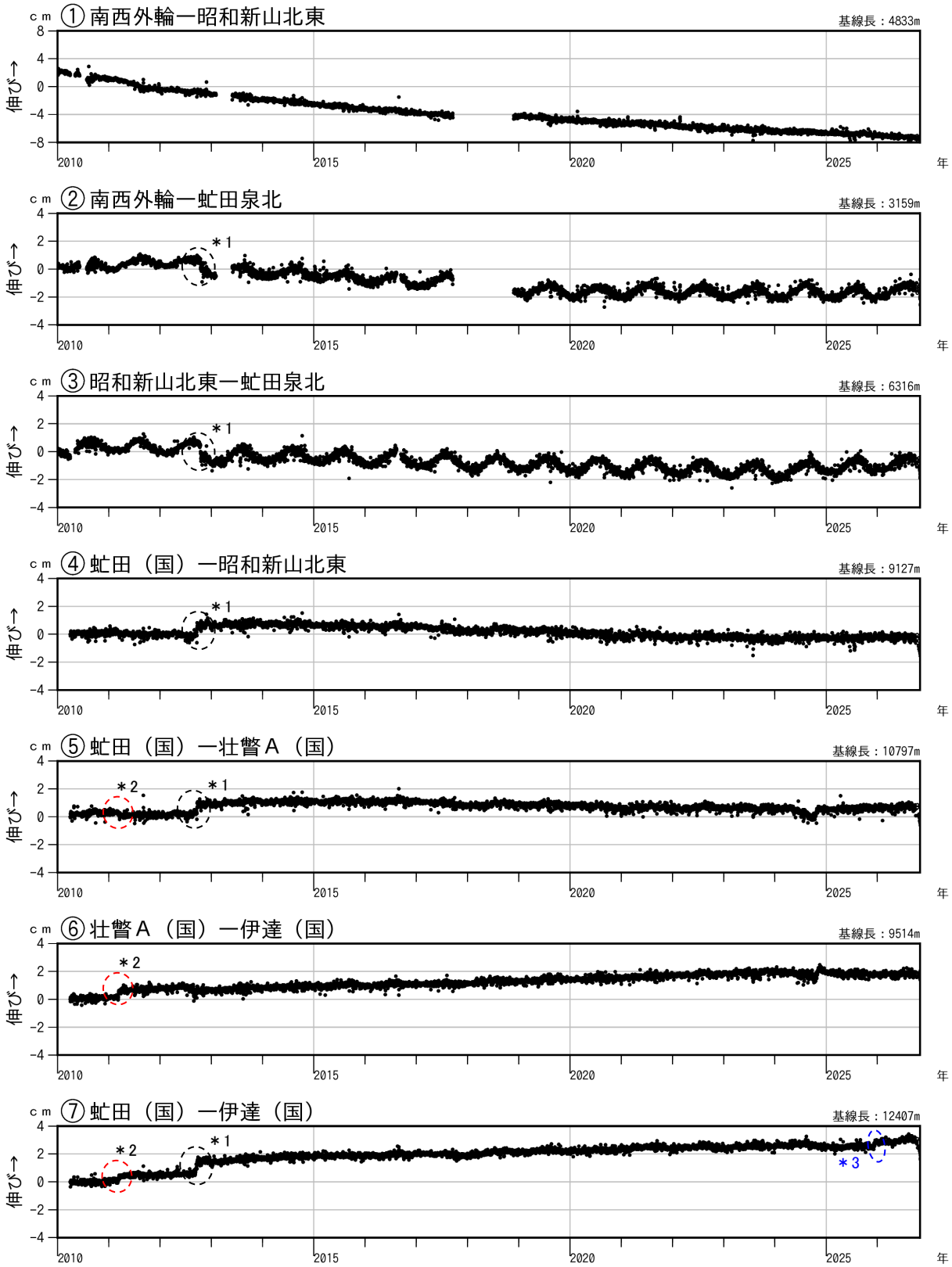


図３　有珠山　火山性地震の震源分布（2015年１月～2026年10月）
○：2015年１月～2026年９月の震源　○：2026年10月の震源



s

図４　有珠山　GNSS連続観測による基線長変化（2010年１月～2026年10月）

グラフ①～⑦は図５の観測点配置図の基線①～⑦に対応しています。
グラフの空白部分は欠測を示します。
＊１：黒破線内の変化は機器変更によるものです。
＊２：赤破線内の変動は、2011年３月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響によるものです。
＊３：青破線内の変動は、2025年12月８日に発生した青森県東方沖の地震の影響によるものです。

・基線①では、期間を通じて1977年噴火に伴う貫入岩体の熱収縮によると考えられる短縮が観測されています。
・有珠山周辺を挟む長基線（基線⑤～⑦）では、現在、特段の変化は観測されていません。

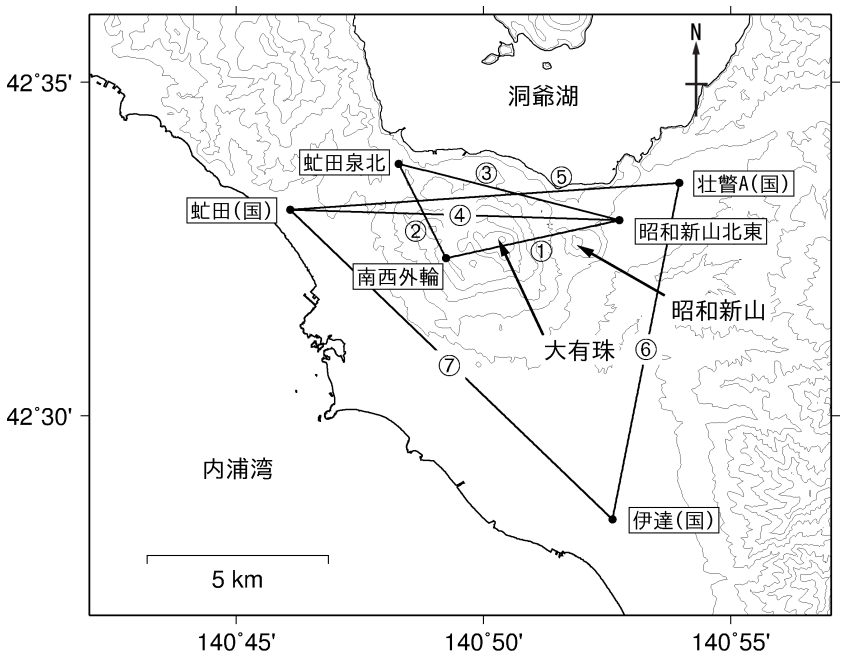
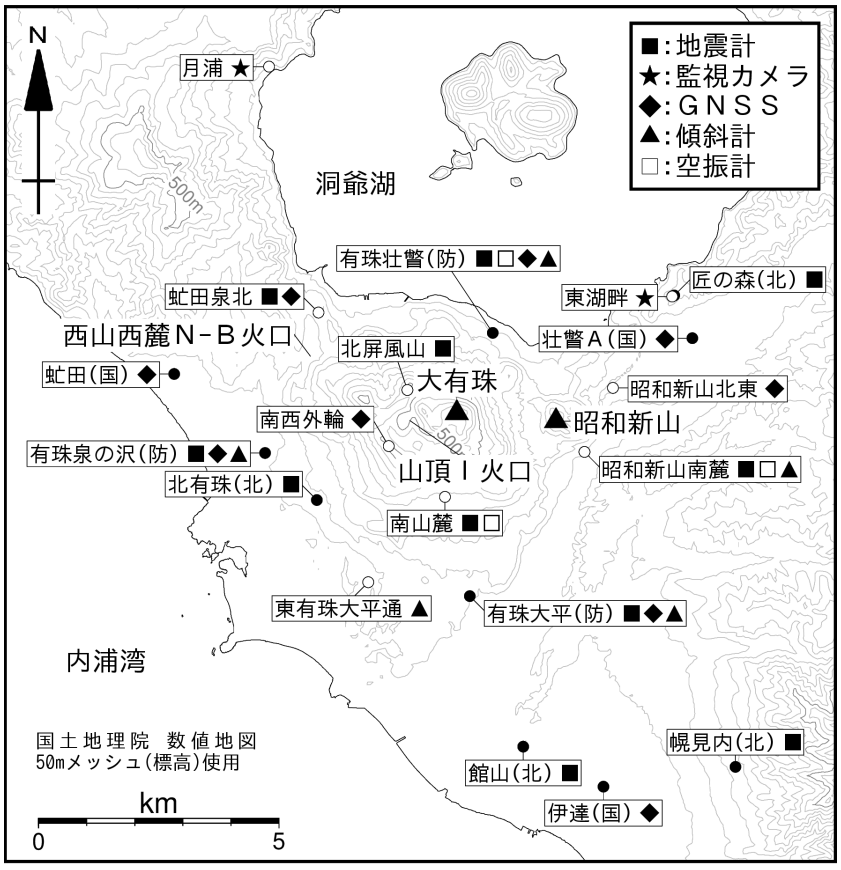


図５　有珠山　GNSS連続観測における観測点配置図



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。
(国):国土地理院、(北):北海道大学、(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所

図６　有珠山　観測点配置図